

1 導入編



Expressワークステーションや添付のソフトウェアの特長、導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。また、セットアップの際の手順を説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

N8700-201にはあらかじめインストールされたソフトウェアはありません。

Expressワークステーションの特長(→2ページ)	Expressワークステーションの特長や添付(または別売品)のソフトウェア、および各種オプションとソフトウェアの組み合わせによって実現できるシステム管理のための機能について説明しています。
導入のポイント(→5ページ)	Expressワークステーションをご利用されるシステムを構築する際に知っておいていただきたい事柄や、参考となるアドバイスが記載されています。
お客様登録(→10ページ)	お客様登録の方法について説明しています。Express5800シリーズ製品に関するさまざまな情報を入手できます。ぜひ登録してください。
セットアップ(→11ページ)	Expressワークステーションをお使いになれるまでに必要な手順について順を追って説明しています。
再セットアップ(→33ページ)	ハードディスクからオペレーティングシステムを起動できなくなった場合にハードディスクの内容を出荷時の状態に戻してから再セットアップする方法について説明しています。

Expressワークステーションの特長

お買い求めになられたExpressワークステーションの特長を次に示します。

高性能

- Intel®社製高性能プロセッサを搭載
 - N8700-201/202:
Intel® Celeron® Processor(667MHz)
 - N8700-203:
Intel® Pentium® III Processor(800MHz)
- 高速100BASE-TX/10BASE-Tインタフェース(100Mbps/10Mbps対応)
- 高速ディスクアクセス(Ultra ATA対応)

高信頼性

- バスパリティエラー検出
- 装置内の温度監視機能
- 他人使用防止(BIOSパスワード)機能
- CPUファン回転監視機能
- 電圧監視機能
- メモリ監視機能(1ビットエラー訂正 / 2ビットエラー検出)
- メモリ縮退機能(障害を起こしたDIMMの論理的な切り離し)
- 盗難防止(セキュリティロック(添付品))

保守機能

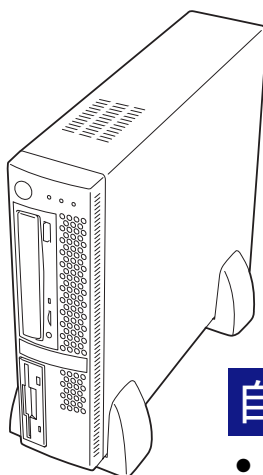
- オフライン保守ユーティリティ
- DUMPスイッチによるメモリダンプ機能

豊富な機能搭載

- グラフィックスアクセラレータRAGE XL搭載(最大解像度1280×1024)
- サウンドスピーカ内蔵
- オーディオ端子(LINE-IN/LINE-OUT)搭載
- El Torito Bootable CD-ROM(no emulation mode)フォーマットをサポート
- POWERスイッチ機能の設定
- ソフトウェアPower Off
- リモートパワーオン機能
- AC-LINK機能

省スペース/省電力

- 85(W)×367(D)×316(H)mm(縦置き時)の省スペース設計
- 横置き可能(20kgまでのディスプレイ装置の設置が可能)
- スリープ機能(Windows 2000で使用可能)



管理機能

- ESMPRO/ServerAgent
- ESMPRO/ServerManager

自己診断機能

- Power On Self-Test(POST)
- システム診断(T&D)ユーティリティ

すぐに使える

- Microsoft® Windows® 2000 Professional 日本語版 / Microsoft® Windows NT® 4.0 Workstation 日本語版インストール済み(セットアップの際に使用するオペレーティングシステムを選択します)

便利なセットアップユーティリティ

- EXPRESSBUILDER(システムセットアップユーティリティ)
- ExpressPicnic(セットアップパラメータFD作成ユーティリティ)
- SETUP(BIOSセットアップユーティリティ)

拡張性

- IOオプションスロット(PCIバス×2スロット)
- 最大768MBのメモリ(DIMM×3スロット)
- USB対応(対応したドライバが必要)

前ページに示すとおりExpressワークステーションには、コンパクトなボディにさまざまな機能が搭載されています。また、ESMPROシリーズとExpressワークステーションやオプションの周辺機器との組み合わせにより情報を一元管理したり、バックアップを容易にした最適なシステムが構築できます。

各機能はそれぞれ以下のハードウェア、およびソフトウェアにより実現しています。

管理分野	必要なハードウェア	必要なソフトウェア
本体管理	Expressワークステーション本体	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent
ストレージ管理 (バックアップ管理)	DATなど*	ESMPRO/ServerManager、 ESMPRO/ServerAgent Windows2000/Windows NT バックアップツール ARCserve for Windows NT* BackupExec*、NetBackup*
電源管理	無停電電源装置(UPS)※	PowerChute <i>plus</i> *
ネットワーク管理	100BASE-TX接続ボード B4680接続ボード*	ESMPRO/Netvisor*

* オプション製品。

本体管理

Expressワークステーションはマザーボード上に標準でリソース監視チップを搭載しており、本体に内蔵されている以下の各種リソースを監視します。これらのハードウェア機能とExpressワークステーション管理用ソフトウェア「ESMPRO/ServerManager」、
「ESMPRO/ServerAgent」が連携し、本体の稼動状況などを監視するとともに万一の障害発生時にはただちに管理者へ通報します。

監視対象	機 能
CPU	稼動監視機能、CPU負荷率の監視機能 / 高負荷の予防機能
メモリ	メモリ故障時の縮退運転機能、ECCメモリビットエラー検出 / 訂正機能、メモリ使用率の管理機能
冷却ファン	CPUファン稼動状態の監視機能
温度	温度監視機能、温度異常時の起動抑止 / 停止機能
電圧	電圧監視機能、電圧異常時の起動抑止
本体電源	電源スイッチOFFによるシャットダウン機能、シャットダウン後の自動電源OFF



ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentは、Expressワークステーションに標準で添付されています。
各ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

ストレージ管理(バックアップ管理)

大容量のストレージデバイスを接続できるExpressワークステーションを管理するために次の点について留意してください。

定期的なバックアップは、不意のワークステーションのダウンに備える最も基本的な対応です。

Expressワークステーションには、データバックアップ用の大容量記憶装置と自動バックアップのための各種ソフトウェアが用意されています。容量や転送スピード、バックアップスケジュールの設定など、ご使用になる環境に合わせて利用してください。

ネットワーク管理

ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentを使用することにより、Expressワークステーションに内蔵されているLANカードの障害や、回線の負荷率等を監視することができます。

また、別売のESMPRO/Netvisorを利用することにより、ネットワーク全体の管理を行うことができます。

電源管理

商用電源のトラブルは、ワークステーションを停止させる大きな原因のひとつです。

停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因となる場合があります。

無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始めると、自動的にバッテリーから電源を供給。システムの停止を防ぎます。システム管理者は、その間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに電圧や電流の変動を抑え、電源装置の寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献します。また、スケジュール等によるワークステーションの自動・無人運転を実現することもできます。

本装置では、APC社製Smart-UPS無停電電源装置と接続することができます。また、管理・制御にはPowerChute *plus*を使用します。

導入のポイント

Expressワークステーションを導入するにあたって重要なポイントについて説明します。

システム構築のポイント

お使いになるシステムにExpressワークステーションを導入するにあたり、次の点について留意してください。

まずはじめにExpressワークステーション、および添付品がすべてそろっていることを確認してください（添付の構成表を参照してください）。万一、足りないものや破損しているものがあつたときは買い求めの販売店に連絡してください。また、システムを構築するために必要となる機器についても確認しましょう。

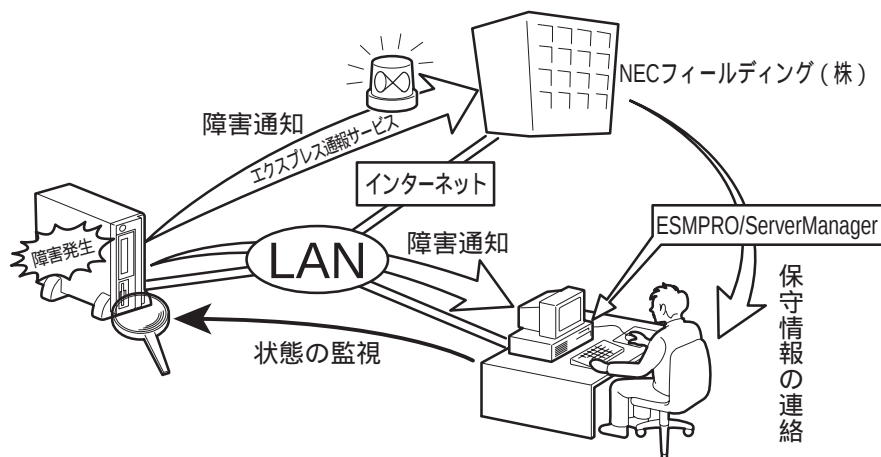
日常での運用において、Expressワークステーションの状態を管理・監視できるようなシステムを構築しておくことが望まれます。

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER™」には、Expressワークステーション、およびExpress5800製品の状態を監視することができるサーバ/ワークステーション管理アプリケーション「ESMPRO®」が収録されています。ESMPROは、障害が起きたときに管理PCへ障害を通知したり、その障害内容を採取したりすることができます。

ESMPROやその他の管理アプリケーション、ハードウェアの持つ機能などを効率よく使用してシステム管理やセキュリティの強化を図ってください。

なお、Expressワークステーションに障害が発生した際に、NECフィールディング(株)がアラーム通報を受信して保守を行う「エクスプレス通報サービス」を利用すれば、低コストでExpress5800シリーズの障害監視・保守を行うことができます。

「エクスプレス通報サービス」をご利用することもご検討ください。



電源を入れる前に

Expressワークステーションをセットアップし、システムを構築する場合は、次の順序で行います。

ハードウェアのセットアップ

Expressワークステーションを箱から取り出し、最適な場所に設置後、キーボード、マウス、ディスプレイ装置のケーブル、電源コードの順でExpressワークステーション背面のコネクタに接続します。



オペレーティングシステムのセットアップが完了するまでは、他の周辺機器の接続をしないでください。これらの作業は、オペレーティングシステムのセットアップが完了してから行います。

オペレーティングシステムのセットアップ

購入されたExpressワークステーションにはWindows 2000 Professional 日本語版とWindows NT 4.0 Workstation 日本語版がすでにインストールされています。そのまま電源をONにすればユーザー固有の情報など必要な設定を入力するだけで使用できるようになっています(使用するオペレーティングシステムは初めて電源をONにした後に選択します)。

詳しい手順は11ページで説明しています。



オペレーティングシステムの選択で、選択しなかった方のオペレーティングシステムをExpressワークステーションにインストールするには、別途オペレーティングシステムを購入しなければいけません。

[Windows 2000 Professional、またはWindows NT 4.0 Workstationのシステムを修復する場合は . . .]

システムの修復をするときは、以下の2つの方法があります。

- システムの修復

システムの修復とは、何らかの原因でOSを動作させるために必要なファイルが破損した場合に、セットアップブートディスクを使用してシステムを起動できる状態にするものです。

破損したファイルが修復対象となっている場合は、各種ユーティリティやユーザー情報なども保存された状態でシステムを起動できるようにすることができますが、システムの修復を行っても、OSが完全な状態で起動されとは限りません。その場合は次に説明する「再セットアップ」でシステムを復旧させてください。

システム修復の方法については「運用・保守編」で説明しています。

● 再セットアップ

システムの破損などが原因でOSを起動できなくなった場合などに、バックアップCD-ROMを使ってハードディスクの内容を出荷時の状態に戻してシステムを起動できるようにするものです。

バックアップCD-ROMを使用して出荷時の状態に戻ったハードディスクは、必要最小限のセットアップが行われるため、再セットアップを行う前の各種ユーティリティやユーザー情報などはすべて失われてしまいます。各種ソフトウェアについては再セットアップ後、インストールし直してください。

バックアップCD-ROMを用いた方法については33ページで説明しています。

内蔵デバイスの取り付け/周辺機器の接続

別途購入されたメモリなどを取り付け、プリンタなどの周辺機器を接続します。接続する周辺機器用のデバイスドライバをインストールする場合は、周辺機器に添付の説明書を参照してインストールしてください。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きた時に障害からより早く確実に復旧できるように、メモリダンプの設定、ワトソン博士の設定を行います。

また、システムを修復する際に使用する「セットアップブートディスク」の作成方法についても説明しています。「セットアップブートディスク」は何らかの原因でOSが起動できなくなった場合に必要となるディスクです。必ず作成してください。

詳しくは26ページをご覧ください。



NECでは、ESMPROの他にも「エクスプレス通報サービス」と呼ばれるExpress5800製品の状態監視用サービスを用意しています。Express5800製品に障害が起きたときに自動的に保守サービス会社に通報され、保守サービス会社から保守情報の通知、または保守員の派遣などのサービスを受けることができます。エクスプレス通報サービスをご契約することをお勧めします。

管理ユーティリティのインストール

システムで検出した障害情報の管理を行うためには、ESMPRO/ServerAgentをインストールします(ESMPRO/ServerAgentは「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます)。また、ネットワーク上の管理PCからExpress5800製品の運用状態や障害情報を確認する場合は管理PCにESMPRO/ServerManagerをインストールしてください(インストールについては「ソフトウェア編」で説明しています)。ESMPRO/ServerManagerはExpressワークステーションにインストールして使用することもできます。



添付のCD-ROMには、「ESMPRO/ServerAgent」と「ESMPRO/ServerManager」の2つのアプリケーションが含まれています。ESMPROには、その他にもさまざまな用途に応じたアプリケーションが用意されています。詳しくはお買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

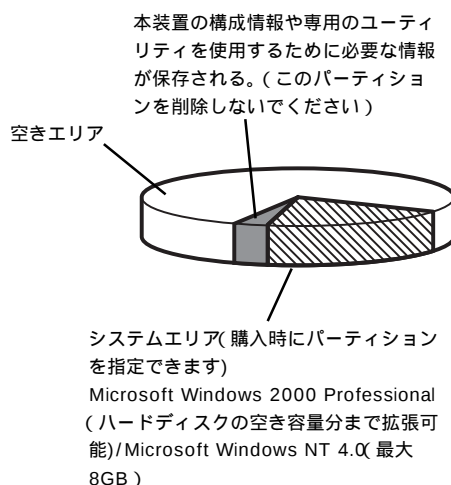
システム情報のバックアップ

ハードウェアとソフトウェアのすべてのセットアップを完了したら、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」のユーティリティを使用してExpressワークステーションのシステム情報のバックアップをとります。

装置の故障による部品交換や修理の後にバックアップしていたシステム情報をリストアすることで故障前と同じ状態でExpressワークステーションを使用することができます。

購入時のハードディスクの状態と保守用パーティション

Expressワークステーションに標準装備のハードディスクにはMicrosoft Windows 2000 Professional/Microsoft Windows NT Workstation 4.0と保守用ユーティリティがあらかじめインストールされています。オペレーティングシステムのパーティションサイズはオペレーティングシステムのセットアップの時に設定できます。また、約16MBほどの「保守用パーティション」がもうけられています。「保守用パーティション」とは、Expressワークステーション特有の構成情報や専用のユーティリティを保存するために使用されるパーティションで、16MB程度の領域を内蔵ハードディスク上へ確保します(保守用パーティションは、1度作成されると以降は作成されません)。



- オペレーティングシステムはセットアップの際にどちらを使用するか選択します。セットアップの完了後は、選択したオペレーティングシステムで起動します。オペレーティングシステムの選択で、選択しなかった方のオペレーティングシステムをExpressワークステーションにインストールするには、別途オペレーティングシステムを購入しなければいけません。
- 保守用パーティションは、その存在がOS上から見えることがありますが、構成情報を保持するためにもこのパーティションを削除しないでください。

Expressワークステーションのセットアップの際に保守用パーティションへ自動的にインストールされるユーティリティは、「システム診断ユーティリティ」と「オフライン保守ユーティリティ」です。

メモリの縮退機能

POST(Power On Self-Test:電源ON後の自動診断プログラム)でメモリ(DIMM)の故障を検出すると自動的に故障したDIMMを切離して運用する機能です(故障したDIMMは早めに交換することをお勧めします)。

縮退機能は、DIMMを増設し、2枚以上のDIMMでの運用中に、いずれか1つのDIMMで障害が発生した場合に有効です。

DIMMが故障するとメモリ容量が少なくなり、システムの動作速度が遅くなったり、アプリケーションを動作させることができなくなったりすることがあります。

DIMMの故障は、POSTを実行している時に表示される画面や、BIOSセットアップユーティリティ、ESMPRO/ServerManagerをインストールしている管理PC上で確認することができます。

縮退機能を自動的に有効にする場合はBIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューの「Memory Reconfiguration」で「DIMM Error Pause」を「Disabled」に設定します。また、障害の発生したDIMMを交換した場合は、BIOSセットアップユーティリティを起動し、「Advanced」メニューの「Memory Reconfiguration」で「Clear DIMM Errors」を選択します。

ネットワーク構築のポイント

ネットワークに接続する場合は、コンピュータ名やTCP/IPなどの設定が必要です。あらかじめ確認しておくことをお勧めします(後から変更することもできます)。

ネットワークを経由して、他のシステムからの指示によりExpressワークステーションの電源を投入(リモートパワーオン)する場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Hardware」メニューの「AC-LINK」を「Stay Off」に、「Wake On LAN」を「Enabled」に設定します。

UPS接続時のポイント

Expressワークステーションの電源コードを無停電電源装置(UPS)に接続している場合、UPSからExpressワークステーションの電源を制御できる電源連動(AC-LINK)機能を使用することができます。

このAC-LINK機能を使用してExpressワークステーションの電源ON/OFFを行う場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Hardware」メニューの「AC-LINK」を「Power On」に設定します。また、UPSを正しく動作させるためにお使いになるUPSに合ったソフトウェアの設定が必要です。ソフトウェア編を参照して正しく設定してください。

ストレージ機能構築のポイント

本装置では、別売品のSCSIコントローラボードを搭載することにより外付けのバックアップ装置を接続することができます。バックアップ装置とバックアップツールを使って定期的に大切なデータのバックアップをとることをお勧めします。

主なバックアップツールは次のとおりです。

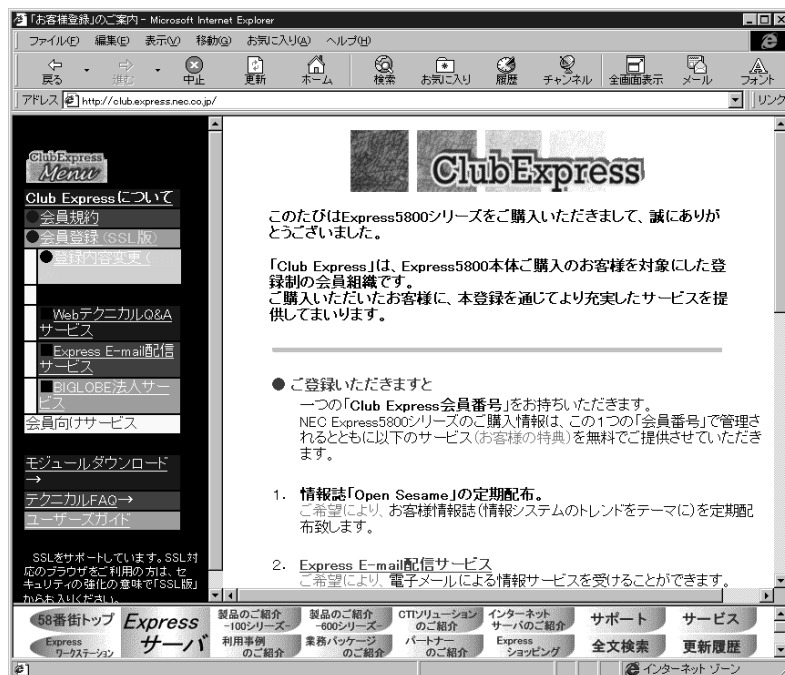
- Windows2000バックアップツール(Windows 2000標準)
- NTBackup(Windows NT標準)
- ARCserve(コンピュータ・アソシエイツ社)
- BackupExec(ベリタス社)
- NetBackup(ベリタス社)

お客様登録

NECでは、製品ご購入のお客様に「Club Express会員」への登録をご案内しております。添付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送いただくか、またはClub Expressのインターネットホームページ

<http://club.express.nec.co.jp/>

にてご登録ください。



「Club Express会員」のみなさまには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスを、無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Expressのインターネットホームページにて紹介しております。是非、ご覧ください。

セットアップ

箱を開けてからお使いになるまでの手順について、順を追って説明します。再セットアップの際は「再セットアップ」を参照してください。

1 ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

1. Expressワークステーションを使用するのに最も適した場所(環境)に設置する。(→49ページ)
2. ディスプレイ装置やマウス、キーボードのケーブルをExpressワークステーションに接続する。(→51ページ)

重要

- 内蔵デバイスはオペレーティングシステムのセットアップを完了してから取り付けてください。
- プリンタなどの周辺機器はオペレーティングシステムのセットアップを完了してから接続してください。

3. 添付の電源コードをExpressワークステーションと電源コンセントに接続する。(→51ページ)
4. 装置の構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。
76ページに示す設定例を参考にしてください。

2 オペレーティングシステムのセットアップ

購入されたExpressワークステーションのハードディスクは、Windows 2000 ProfessionalとWindows NT 4.0 Workstationがお客様の個別情報を設定する前の状態でインストール済みです。

ExpressワークステーションではWindows 2000 Professional、またはWindows NT 4.0 Workstationのいずれかのオペレーティングシステム1つを使用できます。初めてExpressワークステーションの電源を入れたときは使用するオペレーティングシステムを選択してください。

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用して、オペレーティングシステムを選択し、お客様の個別情報を設定してください。

セットアップをはじめる前に

セットアップを始める前に次の点について注意してください。

- プリンタなどの周辺機器の接続をしない

選択したOSが起動されるまで、プリンタなどの周辺機器の接続などはしないでください。周辺機器を本体と同時に購入された場合は、セットアップが完了してから、あらためてオプションの機器に添付された説明書を参照して増設、または接続してください。

- メモリの増設について

メモリ(Windows NT 4.0をインストールする場合は3GBまで)はセットアップ前に取り付けても問題はありません。

- 途中で電源をOFFしない

セットアップの途中で電源をOFFすると故障の原因となります。

- オペレーティングシステムの選択について

初めてExpressワークステーションの電源をONにするときには、使用するオペレーティングシステム(Windows 2000 Professional、またはWindows NT 4.0)を選択することができますが、Windowsのセットアップ終了後にオペレーティングシステムを変更したい場合は、別途オペレーティングシステムを購入していただく必要があります。

チェック欄	選択したオペレーティングシステム
☐	Microsoft Windows 2000 Professional
☐	Microsoft Windows NT 4.0 Workstation

再セットアップする場合もここでチェックしたオペレーティングシステムを選択してください。

- 最初に電源をONにする前に・・・

必ずEXPRESSBUILDER CD-ROMをCD-ROMドライブにセットしてから、Expressワークステーションを起動してください。詳しい手順はこの後の「セットアップの開始」で説明しています。



EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットせずに電源をONにすると、以下のメッセージが表示されます。

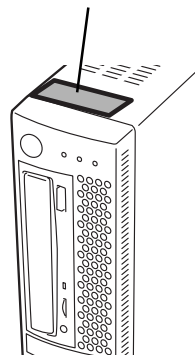
Non-System disk or disk error.
Replace and press any key when ready.

CD-ROMドライブにEXPRESSBUILDERをセットして再起動してください。

- セットアップで必要なもの

EXPRESSBUILDER CD-ROMと添付のフロッピーディスク(1枚)の他に「プロダクトキー」、または「プロダクトID」をメモしておいてください。メモした内容はセットアップの際に必要となります。

プロダクトキー、またはプロダクトID(Windows 2000とWindows NT 4.0で異なる)



セットアップの開始

初めて電源をONにしてセットアップをするときは、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」の起動メニューから「シームレスセットアップ」を選択します。

シームレスセットアップは、あらかじめセットアップ開始前にセットアップに必要な情報を編集しフロッピーディスクに保存しておき、セットアップの際にその情報を逐一読み出して自動的に一連のセットアップを進めるというものです。このとき使用されるフロッピーディスクのことを「セットアップパラメータFD」と呼びます。



- セットアップを開始する前にExpressワークステーションで使用するオペレーティングシステム(Windows 2000 ProfessionalかWindows NT 4.0 Workstation)を決めておいてください。セットアップの途中でオペレーティングシステムの選択をするステップがありますが、選択しなかったオペレーティングシステムは別途購入しない限りインストールすることはできません。
- セットアップを開始したら、完了するまでExpressワークステーションの電源をOFFにしないでください。



- 「セットアップパラメータFD」とはシームレスセットアップの途中で設定・選択する情報が保存されたセットアップ用ディスクのことです。
- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクをご利用ください。お客様で用意する場合は、MS-DOS 1.44MBフォーマット済みのフロッピーディスク(1枚)を用意してください。
- Expressワークステーションの他にWindows 95/98、またはWindows NT 3.51以降で動作しているコンピュータがお手元にある場合は、ExpressPicnicを利用してあらかじめセットアップ情報を編集しておくことをお勧めします(106ページ参照)。

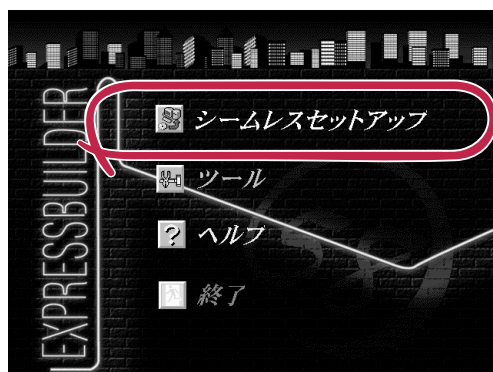
次の手順でExpressワークステーションを起動して、セットアップを始めます。

1. ディスプレイ装置、Expressワークステーションの順に電源をONにする。
2. ExpressワークステーションのCD-ROMドライブにCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてExpressワークステーションを再起動する。

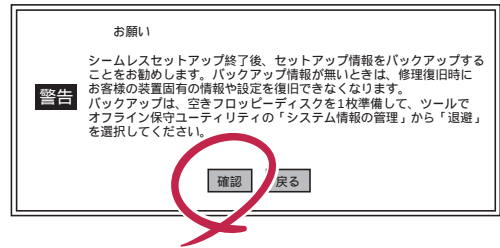
CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動し、「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

4. [シームレスセットアップ]をクリックする。

「お願い」が表示されます。



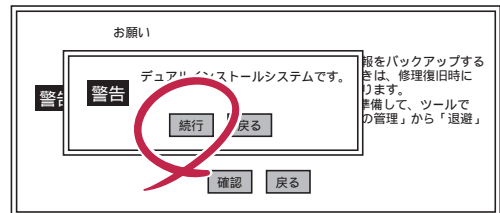
5. 記載内容をよく読んでから[確認]ボタンをクリックする。



6. [続行]ボタンをクリックする。

内蔵のハードディスク内の状態を通知するメッセージです。

[続行]ボタンをクリックすると「セットアップパラメータFDを挿入してください。」というメッセージが表示されます。



7. 「セットアップパラメータFD」をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]ボタンをクリックする。



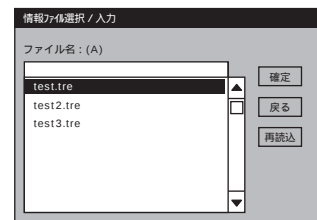
チェック

「セットアップパラメータFD」をお持ちでない場合でも、1.44MBフォーマット済みフロッピーディスク(ブランクディスク)をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]ボタンをクリックしてください。

[設定済のセットアップパラメータFDをセットした場合]

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

インストールに使用するセットアップ情報ファイル名を選択する。



チェック

選択されたセットアップ情報ファイルに修正できないような誤りがある場合(たとえばExpressPicnic Ver.3以前において作成した「Picnic-FD」をセットしているときなど)、再度「セットアップパラメータFD」のセットを要求するメッセージが表示されます。セットしたフロッピーディスクが正しいが確認してください。

セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

確認する場合は[確認]ボタンを、確認せずにそのままインストールを行う場合は、[スキップ] ボタンをクリックする。

重要

オペレーティングシステム(OS)の選択は1回だけです。再インストールの時にここで決めたOS以外のOSをインストールすることはできません(たとえば、ここでWindows NT 4.0 Workstationを選択してインストールしたが、その後、「再セットアップ」の時にはWindows 2000 Professionalでインストールしたなど)。一度選択したOS以外のOSをインストールするためには別途インストールしたいOSを購入してください。

<Windows 2000 Professionalを選択したセットアップ情報ファイルの場合>

[確認]ボタンをクリック → 「オペレーティングシステムのセットアップ(次ページ)」の手順1へ進む

[スキップ]ボタンをクリック → 「オペレーティングシステムのセットアップ(次ページ)」の手順2へ進む

<Windows NT 4.0 Workstationを選択したセットアップ情報ファイルの場合>

[確認]ボタンをクリック → 「オペレーティングシステムのセットアップ(22ページ)」の手順1へ進む

[スキップ]ボタンをクリック → 「オペレーティングシステムのセットアップ(22ページ)」の手順2へ進む

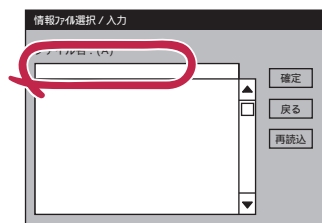
[ブランクディスクをセットした場合]

[ファイル名:(A)]の下にあるボックス部分をクリックするか、Aキーを押す。

入力ボックスが表示されます。

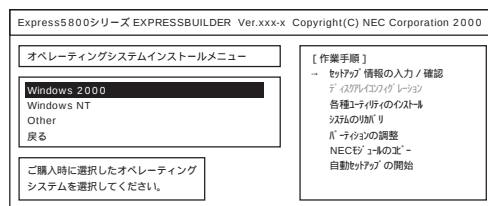
ファイル名を入力する。

[オペレーティングシステムインストールメニュー]が表示されます。



Expressワークステーションで使用するオペレーティングシステムを選択する。

[Windows 2000]か[Windows NT]のいずれかを選択してください。



[Windows 2000]を選択 → 次ページへ進む

[Windows NT]を選択 → 22ページへ進む

重要

オペレーティングシステム(OS)の選択は1回だけです。再インストールの時にここで決めたOS以外のOSをインストールすることはできません(たとえば、ここでWindows NT 4.0 Workstationを選択してインストールしたが、その後、「再セットアップ」の時にはWindows 2000 Professionalでインストールしたなど)。一度選択したOS以外のOSをインストールするためには別途インストールしたいOSを購入してください。

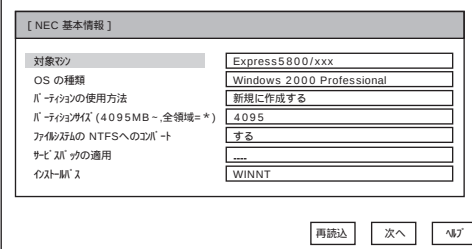
Windows 2000 Professionalのセットアップ

13ページの「セットアップの開始」でMicrosoft Windows 2000 Professionalをオペレーティングシステムとして選択した場合のセットアップ手順と注意事項について説明します。

オペレーティングシステムのセットアップ

1. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

[NEC基本情報]画面が表示されます。
設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]ボタンをクリックしてください。以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[ヘルプ]ボタンをクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。



重要

- 「パーティションの使用方法」は「新規に作成する」で固定です。変更できません。
- 「パーティションサイズ」で設定できる値は「4095MB」～「999999MB」です。ただし、インストールするディスクサイズ以内の値を指定してください。
- 「パーティションサイズ」で「4095MB」以外の値を指定したときはNTFSにファイルシステムをコンバートしなければいけません。
- 「インストールパス」の設定は「winnt」で固定です。変更できません。
- ネットワークの設定はできません。以下の状態でセットアップされます。
 - TCP/IP (DHCP使用)
 - SNMPサービス (デフォルト設定)
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。

ヒント

[NEC基本情報]画面にある[再読み込み]ボタンをクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[再読み込み]ボタンは、[NEC基本情報]画面にのみあります。

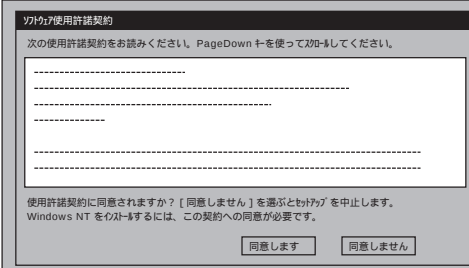
設定を完了すると自動的に再起動します。

[ソフトウェア使用許諾契約]画面が表示されます。

2. よく読んでから、同意する場合は、[同意します]ボタンを、同意しない場合は、[同意しません]ボタンをクリックする。

重要

同意しないと、セットアップは終了し、Windows 2000はインストールされません。



- メッセージに従ってCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブから、セットアップパラメータFDをフロッピーディスクドライブから取り出して[OK]ボタンをクリックするか、<Enter>キーを押す。

Windows 2000と指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。

[Windows2000の紹介]ダイアログボックスが表示されたら、インストールは完了です。



● サウンドドライバについて

インストールが完了すると、サウンドドライバが適用されます。インストール完了後にシステムを再起動すると、サウンドドライバが有効になります。

● ディスク構成について

セットアップを完了したExpressワークステーションのハードディスク上に、「MAINTEN_P」と表示された領域が存在する場合があります。この領域は構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。



- セットアップで作成した「セットアップパラメータFD」は大切に保管しておいてください。再セットアップの時にこのディスクを使用すると前回と同じ設定で自動的にセットアップすることができます。
- 31ページを参照してWindows 2000セットアップブートディスクを作成しておくことをお勧めします。

デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ

オプションのデバイスのドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添付の説明書を参照してください。

● ディスクドライバ(IDE)

標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです(システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

- ネットワークドライバ

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度と Duplexモードの設定が必要です(システムの再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

スタートメニューから[設定]をポイントし、[ネットワークとダイヤルアップ接続]をクリックする。

[ネットワークとダイヤルアップ接続]ダイアログボックスが表示されます。

[ローカル エリア接続]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。

[ローカル エリア接続のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

[構成]ボタンをクリックする。

ネットワーク アダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。

[詳細設定]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]をHUBの設定値と同じ値に設定する。

ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックする。

[ローカル エリア接続のプロパティ]ダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックする。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加 / 削除をしてください。[ネットワークとダイヤルアップ接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

- グラフィックスアクセラレータドライバ(ディスプレイドライバ)

グラフィックスアクセラレータ ドライバは、購入時にインストール済みです(システムの再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

- 3モードフロッピードライブ

Windows 2000では、2モードのフロッピードライブ(FAT 1.44MBと720KBフォーマットのフロッピーディスクが使用可能)が標準でインストールされます。

3モードのフロッピードライブ(FAT 1.44MB、1.2MB、720KB、640KBフォーマットのフロッピーディスクが使用可能)を使用したい場合は、Windows 2000のインストールが終了した後にドライバをアップデートしてください。

また、システムを修復したときやシステムを再セットアップしたときにもドライバをアップデートしてください。

スタートメニューから[設定]を選択し、[コントロールパネル]をクリックする。

[管理ツール]内の[コンピュータの管理]を起動し、[デバイスマネージャ]をクリックする。

デバイスの一覧が表示されます。

デバイスの一覧より[フロッピーディスクコントローラ] [標準フロッピーディスクコントローラ]の順でダブルクリックする。

[標準フロッピーディスクコントローラのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

[ドライバ] タブをクリックし、[ドライバの更新] ボタンをクリックする。

[デバイスドライバのアップグレードウィザード] ダイアログボックスが表示されます。

[デバイスドライバのアップグレードウィザード] で [次へ] ボタンをクリックし、[ハードウェアデバイスドライバインストール] ダイアログボックスを表示させる。

[ハードウェアデバイスドライバインストール] ダイアログボックスで このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する ボタンをクリックし、[次へ] ボタンをクリックする。

[デバイスドライバの選択] ダイアログボックスを表示します。

[ディスク使用] ボタンをクリックする。

[フロッピーディスクからインストール] ダイアログボックスが表示されます。

「C:¥NECINST¥UPDATE¥FLOPPY¥NS」と入力し [OK] ボタンをクリックする。

「C」はシステムドライブを指定してください。

モデルに [NEC 3mode floppy disk controller] が表示されます。

[次へ] ボタンをクリックする。

[デバイスドライバのインストール開始] ダイアログボックスが表示されます。

[次へ] ボタンをクリックする。

ファイルのコピーが始まります。ファイルのコピー実行中に、[デジタル署名が見つかりませんでした] のダイアログボックスが表示されます。

[はい] ボタンをクリックする。

コピー処理が終了し、[デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了] ダイアログボックスが表示されます。

[完了] ボタンをクリックする。

[NEC 3mode floppy disk controllerのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

[閉じる] ボタンをクリックする。

[システム設定の変更] ダイアログボックスが表示されます。

[いいえ] ボタンをクリックする。

デバイスの一覧より [フロッピーディスクドライブ] [フロッピーディスクドライブ] の順でダブルクリックする。

[フロッピーディスクドライブのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

[ドライバ] タブをクリックし、[ドライバの更新] ボタンをクリックする。

[デバイスドライバのアップグレードウィザード] ダイアログボックスが表示されます。

以降、[標準フロッピーディスクコントローラのプロパティ] と同様の操作で実行し、[NEC 3mode floppy disk driveのプロパティ] ダイアログボックスが表示されるまで作業を続ける。

中で表示されるモデルは「NEC 3mode floppy disk drive」と表示されます。

[NEC 3mode floppy disk driveのプロパティ]ダイアログボックス]で[閉じる]ボタンをクリックする。

[システム設定の変更]ダイアログボックスが表示されます。

[はい]ボタンをクリックしシステムを再起動する。

再起動後、3モードフロッピードライバが有効となります。

● サウンドドライバ

サウンドドライバは、以下の手順でインストールします。

スタートメニューから[設定]を選択し、[コントロールパネル]をクリックする。

[管理ツール]内の[コンピュータの管理]を起動し、[デバイスマネージャ]をクリックする。
デバイスの一覧が表示されます。

デバイスの一覧より[マルチメディア オーディオ コントローラ]をダブルクリックする。

[マルチメディア オーディオ コントローラ プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

[ドライバ]タブをクリックし、[ドライバの更新]ボタンをクリックする。

[デバイスドライバのアップグレードウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

[デバイスドライバのアップグレードウィザード]ダイアログボックスで、[次へ]ボタンをクリックする。

[ハードウェア デバイスドライバのインストール]を表示します。

[デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)]ラジオボタンをクリックし、[次へ]ボタンをクリックする。

[ドライバファイルの指定]を表示します。

[検索場所オプション]で[フロッピーディスクドライブ]と[CD-ROMドライブ]のチェックボックスのチェックをはずし、[場所を指定]のチェックボックスをチェックする。

[次へ]ボタンをクリックする。

ファイル名を指定する[デバイスドライバのアップグレードウィザード]ダイアログボックスを表示します。

[製造元のファイルのコピー元]で「C:¥NECINST¥SOUND¥YAMAHA¥dw2230」と入力し、[OK]ボタンをクリックする。

「C」はシステムドライブを指定してください。

[ドライブファイルの検索]で、[次へ]ボタンをクリックする。

[ファイルをコピーしています]ダイアログボックスが表示され、システムにファイルがコピーされます。コピー処理が終了し、[デバイスドライバのアップグレードウィザード]ダイアログボックスに戻ります。

しばらくして、[このデバイスに対するソフトウェアのインストールが終了しました。]と表示されます。

[完了]ボタンをクリックする。

[YAMAHA DS-XG PCI Audio CODEC (WDM)のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

[閉じる] ボタンをクリックする。

スタートメニューから[シャットダウン]をクリックする。

[Windows のシャットダウン]ダイアログボックスが表示されます。

[再起動]を選択し、[OK]ボタンをクリックしシステムを再起動する。

再起動後、サウンドドライバが有効となります。

システムのアップデート

システムのアップデートは、Expressワークステーション購入時には自動で適用されていますが、システムの修復を行った場合は、必ずシステムのアップデートを行ってください。

次の手順に従ってシステムをアップデートしてください。

1. 管理者権限のあるアカウント(administrator等)で、システムにログオンする。

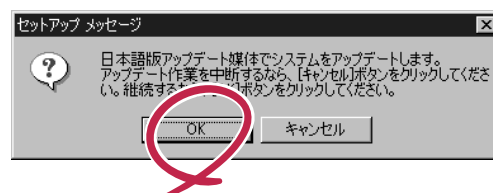
2. エクスプローラから「C:\¥NECINST¥UPDATE¥update.exe」を実行する。

セットアップメッセージが表示されます。

3. システムのアップデートを継続する場合は、[OK]ボタンをクリックする。

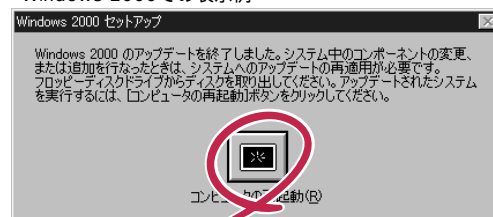
セットアップダイアログボックスが表示されます。

<Windows 2000での表示例>



4. [コンピュータの再起動] ボタンをクリックしてシステムを再起動する。

<Windows 2000での表示例>



Windows NT 4.0 Workstationのセットアップ

13ページの「セットアップの開始」でMicrosoft Windows NT 4.0 Workstationをオペレーティングシステムとして選択した場合のセットアップ手順と注意事項について説明します。

オペレーティングシステムのセットアップ

1. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

[NEC基本情報] 画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ] ボタンをクリックしてください。以降、画面に表示される[次へ] [戻る] [ヘルプ] ボタンをクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。

[NEC 基本情報]	
対象マシン	Express5800/xxx
OSの種類	WindowsNT4.0 Workstation
パーティションの使用方法	新規に作成する
パーティションサイズ	4095
ファイルシステムの NTFS へのエポック	する
サービスパックの適用	する
インストールパス	WINNT

再読み込み 次へ ヘルプ

重要

- 「パーティションの使用方法」は「新規に作成する」で固定です。変更できません。
- 「パーティションサイズ」で設定できる値は「2048MB」、「4095MB」、「8000MB」のうちのいずれかです。
- 「パーティションサイズ」で「8000MB」を指定したときはNTFSにファイルシステムをコンバートしなければいけません。
- 「インストールパス」のデフォルトは「<システムドライブ>:\\$WINNT」です。お使いになる環境に合わせて変更することもできます。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。



ヒント

[NEC基本情報] 画面にある[再読み込み] ボタンをクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[再読み込み] ボタンは、[NEC基本情報] 画面にのみあります。

設定を完了すると自動的に再起動します。

2. Update媒体のモジュールをコピーする。

メッセージに従ってインストールするUpdate媒体をフロッピーディスクドライブに挿入してください。



ヒント

[Update媒体の適用] で「しない」を選択した場合は、スキップされます。



チェック

「Update媒体」とは、弊社が発行する不具合吸収用のフロッピーディスクのことです。適用すべき媒体がありましたら、予防保守のため適用してください。なければ必要ありません。

3. 「サービスパック」のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。



ヒント

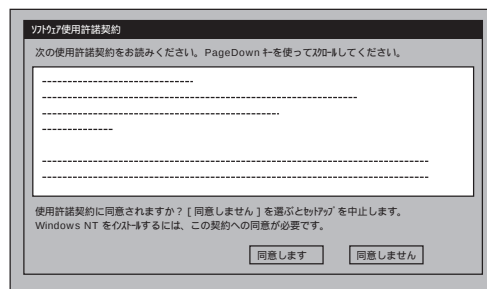
[サービスパックの適用] で「しない」を選択した場合は、スキップされます。

[ソフトウェア使用許諾契約] 画面が表示されます。

- よく読んでから、同意する場合は、[同意します] ボタンを、同意しない場合は、[同意しません] ボタンをクリックする。

重要

同意しないと、セットアップは終了し、Windows NTはインストールされません。

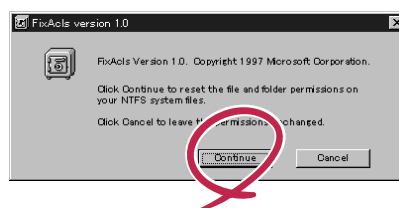


- メッセージに従ってCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブから、セットアップパラメータFDをフロッピーディスクドライブから取り出して[OK] ボタンをクリックするか、<Enter>キーを押す。

重要

ファイルシステムをNTFSにコンバートした場合

ファイルシステムをNTFSにコンバートしたときは、必ずAdministrator権限を持ったユーザーでログオンしてください。また、ログオン後に [FixAcls version 1.0] ダイアログボックスが表示されます。必ず、[Continue] ボタンをクリックしてください。



[WindowsNTへようこそ] ダイアログボックスが表示されたら、インストールは完了です。

チェック

Windows NT 4.0へはローカルのadministratorとしてログオンします。

重要

- ディスク構成について

セットアップを完了したExpressワークステーションのハードディスク上に、「EISA ユーティリティ」と表示された領域が存在する場合があります。この領域は構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。



- セットアップで作成した「セットアップパラメータFD」は大切に保管しておいてください。再セットアップの時にこのディスクを使用すると前回と同じ設定で自動的にセットアップすることができます。
- あらかじめWindows NT 4.0セットアップブートディスク(31ページ参照)や、Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER(30ページの「チェック」を参照)を作成しておくことをお勧めします。

デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ

オプションのデバイスのドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添付の説明書を参照してください。

- ディスクドライバ(IDE)

標準装備のディスクドライバは、自動的にインストールされます(再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

- ネットワークドライバ

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度と Duplexモードの設定が必要です(システムの再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

スタートメニューから[設定]をポイントし[コントロールパネル]をクリックする。

[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

[ネットワーク]アイコンをダブルクリックする。

[ネットワーク]ダイアログボックスが表示されます。

[アダプタ]タブをクリックし、ネットワークドライバを選択後、[プロパティ]ボタンをクリックする。

ネットワークアダプタの[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

[Advanced]タブをクリックし、[Speed]と[Duplex]をHUBの設定値と同じ値に設定する。

ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックする。

[ネットワーク]ダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックする。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加 / 削除をしてください。[ネットワーク]ダイアログボックスから[プロトコル]タブをクリックしてプロトコルを設定する画面を表示させて行います。

- グラフィックスアクセラレータドライバ(ディスプレイドライバ)

グラフィックスアクセラレータドライバは、以下の手順でインストールします。

21ページを参照してシステムをアップデートする。

スタートメニューの[プログラム]から[WindowsNTエクスプローラ]をクリックする。

「C:¥NECINST¥VIDEO¥RAGEXL」ディレクトリ内の[Setup.exe]アイコンをダブルクリックする。

メッセージに従ってインストール作業を進める。

指示に従って再起動する。

● サウンドドライバ

サウンドドライバは以下の手順でインストールします。

スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

[ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスが表示されます。

[ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスの[参照]ボタンをクリックする。

[ファイルの参照]ダイアログボックスを表示する。

[ファイルの参照]ダイアログボックスの「ファイル名」に以下のファイル名を指定し、[OK]ボタンをクリックする。

C:\¥NECINST¥SOUND¥YAMAHA¥dni1238¥setup.exe

「C」はシステムドライブを指定してください。

[YAMAHA DS-XG Driver 4.00.1238]のインストールウィザードが開始します。

ウィザードのガイドの指示に従ってボタンをクリックする。

[YAMAHA DS-XG Driver]ダイアログボックスで、[はい、直ちにコンピュータを再起動します。]のラジオボタンが選択されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックする。

システムが再起動されます。

システムのアップデート

システムのアップデートは、Expressワークステーション購入時には自動で適用されていますが、システムの修復を行った場合は、必ずシステムのアップデートを行ってください。

アップデートの手順については21ページを参照してください。

3 内蔵デバイスの取り付け/周辺機器の接続

Expressワークステーションを初めてセットアップするときや再セットアップするときは、購入時の状態でオペレーティングシステムのセットアップをしなければなりません。プリンタなどの周辺機器の接続はオペレーティングシステムのセットアップが完了してから行ってください。Expressワークステーション背面のコネクタには、さまざまな周辺機器と接続することができるコネクタがあります。コネクタの位置については、「ハードウェア編」の「設置と接続」を参照してください。

周辺機器のデバイスドライバや周辺機器が提供するアプリケーションのインストールや設定については、周辺機器に添付の説明書を参照してください。

4 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定 ~Windows 2000/Windows NT共通~

Expressワークステーション内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。



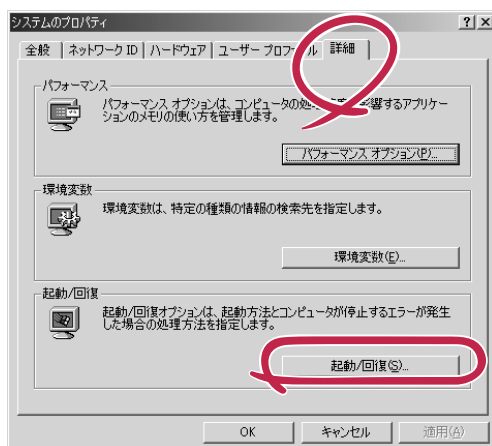
メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生した時にメモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

Windows 2000 Professionalの場合

次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [システム]アイコンをダブルクリックする。
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
3. [詳細]タブをクリックする。
4. [起動/回復]ボタンをクリックする。



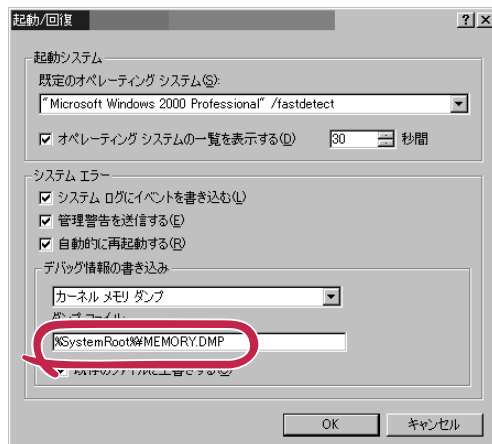
5. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

<Cドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

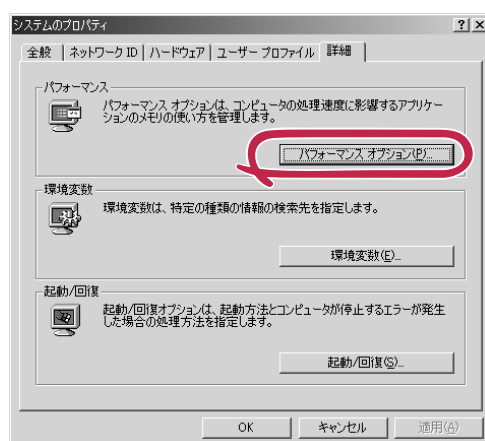
C:\¥MEMORY.DMP

重要

- デバッグ情報の書き込みは「カーネル メモリ ダンプ」を指定することを推奨します。
- Expressワークステーションに搭載しているメモリサイズ+12 MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。



6. [パフォーマンスオプション] ボタンをクリックする。

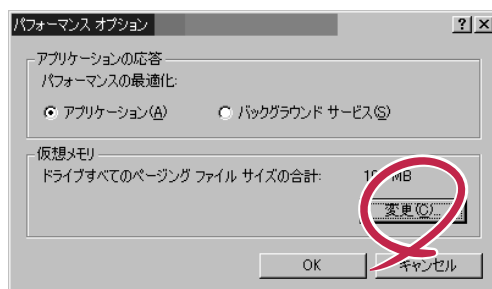


7. [仮想メモリ] ボックスの[変更] ボタンをクリックする。

8. [選択したドライブのページングファイルサイズ] ボックスの[初期サイズ] [推奨] 値以上に変更し、[設定] ボタンをクリックする。

重要

ページングファイルの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報を採取できない場合があります。搭載メモリサイズの約1.5倍を目安に設定してください。再セットアップを行った場合は、ページングファイルがOSパーティション以外のパーティションに作成されることがあります。ページングファイルを作成するドライブを任意に変更してください。



9. [OK] ボタンをクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

Windows NT 4.0 Workstationの場合

次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューの[設定]をクリックし、[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

2. [システム]アイコンをダブルクリックする。
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

3. [起動/シャットダウン]タブをクリックする。

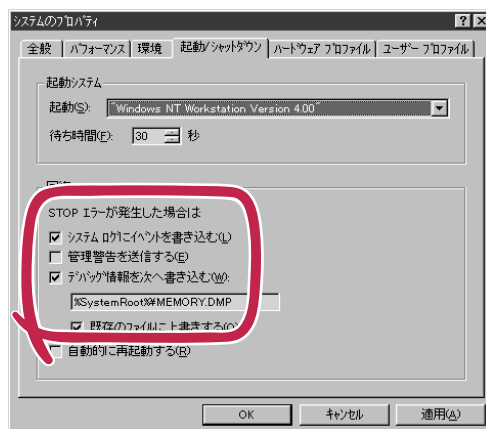
4. [システムログにイベントを書き込む]をチェックする。

5. [デバッグ情報を次へ書き込む]をチェックする。

6. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」という
ファイル名で書き込む場合>

D:\¥MEMORY.DMP



重要

Expressワークステーションに搭載しているメモリ容量+12MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。

7. [パフォーマンス]タブをクリックする。
8. [変更]ボタンをクリックする。
[仮想メモリ]ダイアログボックスが表示されます。
9. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]ボタンをクリックする。

重要

ページングファイルの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報を採取できません。「搭載メモリサイズ」+12MB以上を目安に設定してください。

10. [OK]ボタンをクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

重要

設定後、障害が発生してシステムが再起動されたとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのままシステムを起動してください。

ワトソン博士の設定 ~ Windows 2000/Windows NT共通 ~

ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとExpressワークステーションを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。



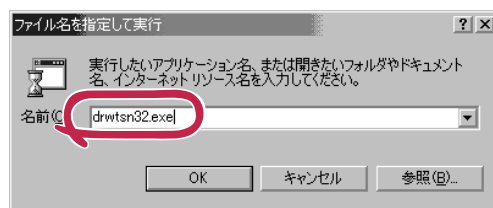
ワトソン博士の設定は、Expressワークステーション購入時、および再セットアップ時に自動的に設定されています。

1. スタートメニューの「ファイル名を指定して実行」をクリックする。

2. 「名前」ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、「OK」ボタンをクリックする。

ワトソン博士のダイアログボックスが表示されます。

<Windows 2000での表示例>



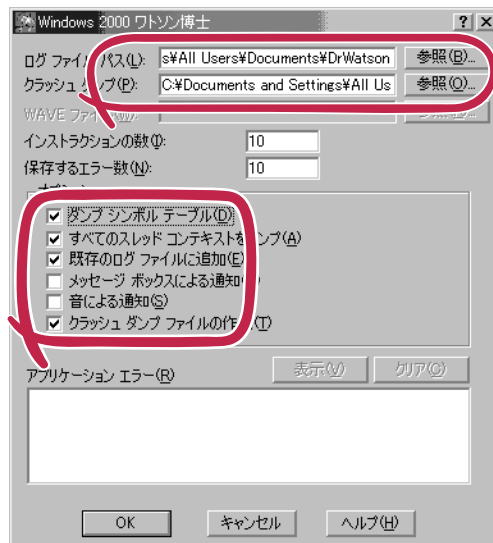
3. 「ログファイルパス」ボックスに診断情報の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。



ネットワークパスは指定できません。
ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

<Windows 2000での表示例>



4. 「クラッシュダンプ」ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。

5. 「オプション」ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- ☐ ダンプシンボルテーブル
- ☐ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- ☐ 既存のログファイルに追加
- ☐ クラッシュダンプファイルの作成

6. 「OK」ボタンをクリックする。

システム修復情報の更新 ~ Windows NTのみ ~

オペレーティングシステムのデータが破損した場合にそなえて、システムの修復が行えるようにするためにシステム構成を変更したら、必ず「システムのアップデート」とともに「システム修復情報の更新」をしてください。システム修復情報にはコンフィグレーションファイルやレジストリファイルなどがあります。



システム修復情報はフロッピーディスクにも保存できますが、アプリケーションのインストールなどでレジストリが大きくなった場合、1枚のフロッピーディスクでは保存しきれなくなることがあります。

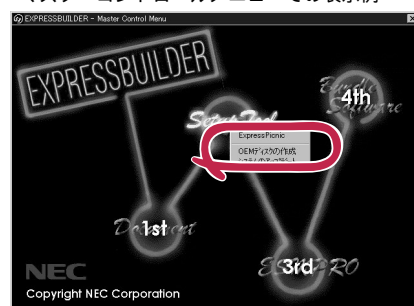
この場合、修復ディスクは正しく作成されませんが、正しく作成されなかったことを報告するようなメッセージは表示されません。

Windows NTでは、ハードディスク上にある修復情報を見て、システムの修復ができるので、特に修復ディスクを作成する必要はありません。



システムの修復を行う場合に「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるフロッピーディスクをセットするよう要求される場合があります。ディスクは、EXPRESSBUILDERの「マスターコントロールメニュー」の「OEMディスクの作成」またはEXPRESSBUILDERからExpressワークステーションを起動して、「ツール」メニューから作成することができます(すでに作成している場合は、作成し直す必要はありません)。詳しくはソフトウェア編を参照してください。

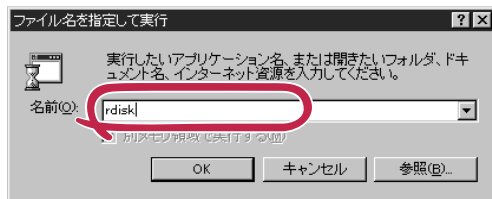
<マスターコントロールメニューでの表示例>



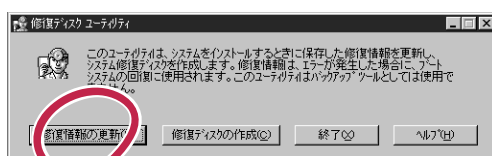
- 「システム修復情報の更新」はシステムに障害が発生し、起動しなくなったときにシステムが起動できるように復旧することを目的としています。「システム修復情報の更新」はシステムのバックアップを目的としたものではありません。
- 運用中にシステムやコンポーネントを変更した場合にも以下の手順で「システム修復情報の更新」を行ってください。

次の手順に従って、システム修復情報を更新してください。

1. スタートメニューの「ファイル名を指定して実行」をクリックする。
2. 「名前」ボックスに「rdisk.exe」と入力し、「OK」ボタンをクリックする。



「修復ディスクユーティリティ」ダイアログボックスが表示されます。



3. [修復情報の更新] ボタンをクリックする。

「システムのインストール時、またはこのユーティリティの前の実行時に保存された修復情報は、削除されます。この操作を続行しますか？」というメッセージが表示されます。

4. [はい] ボタンをクリックする。

「システム修復ディスクを作成しますか？」というメッセージが表示されます。



5. [いいえ] ボタンをクリックする。

6. [終了] ボタンをクリックする。

セットアップブートディスクの作成

「セットアップブートディスク」は、何らかの原因でOSを動作させるために必要なファイルが破損し、再起動できなくなった場合、このフロッピーディスクから起動し、システムを修復することができます。あらかじめ作成しておくことをお勧めします。

作業を始める前に1.44MBフォーマット済みの3.5インチフロッピーディスクを用意してください。

- Windows 2000の場合: 4枚
- Windows NTの場合: 3枚

以下の手順でセットアップブートディスクを作成します。

1. 管理者権限のあるアカウント(administrator等)で、システムにログオンする。
2. スタートメニューから[ファイル名を指定して実行] をクリックし、下記コマンドを入力後、[OK] ボタンをクリックする。

Windows 2000の場合: C:¥BOOTDISK¥MAKEBT32.EXE

Windows NTの場合: C:¥I386¥WINNT32.EXE/ox

「C」はシステムドライブを指定してください。

3. コピー先のフロッピーディスクドライブを指定した後、表示されるメッセージに従ってセットアップブートディスクを作成する。

以下のフロッピーディスクが作成されます。

Windows 2000の場合:

- Windows 2000 Setup Boot Disk
- Windows 2000 Setup Disk #2
- Windows 2000 Setup Disk #3
- Windows 2000 Setup Disk #4

Windows NTの場合:

- Windows NT 4.0 Setup Boot Disk
- Windows NT 4.0 Setup Disk #2
- Windows NT 4.0 Setup Disk #3

4. <Windows 2000の場合のみ>

「C:¥BOOTDISK¥TXTSETUP.SIF」をWindows 2000 Setup Boot Diskにコピーする。

「C」はシステムドライブを指定してください。

以上で完了です。



重要

- 作成したセットアップブートディスクは、ラベルを貼って大切に保管してください。
- システムの修復方法は「運用・保守編」を参照してください。

5 管理ユーティリティのインストール

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」には、本装置監視用の「ESMPRO/ServerAgent」、およびExpressサーバ・ワークステーション管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。これらのユーティリティは、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます。



詳細については、「ソフトウェア編」の「Express 本体用バンドルソフトウェア」、または装置に添付されている別冊の説明書などを参照して使用環境に合った状態に設定してください。

また、ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。



重要

「再セットアップ」を行ったときは、個別にインストールしてください。

6 システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。

システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧(リストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをしてください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をExpressワークステーションのCD-ROMドライブにセットして、再起動する。
EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。
3. [ツール]-[オフライン保守ユーティリティ]を選ぶ。
4. [システム情報の管理]から[退避]を選択する。
以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

再セットアップ

再セットアップとは、システムの破損などが原因でオペレーティングシステム(OS)を起動できなくなった場合などに添付の「バックアップCD-ROM」を使ってハードディスクを出荷時の状態に戻してシステムを起動できるようにするものです。



再セットアップをする前にシステムの修復を試してみてください。詳しくは「運用・保守編」をご覧ください。

再セットアップは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」のメニューから起動します。
[シームレスセットアップ]をクリックすると、OSの再セットアップを開始します。



再セットアップできるオペレーティングシステムはそれまで使用していたオペレーティングシステムです(Windows 2000 か Windows NT 4.0のいずれか)。前回と異なるオペレーティングシステムをインストールするには、別途オペレーティングシステムを購入してください。



再セットアップの準備

作業を始める前にディスプレイ装置を除く周辺機器のケーブルをExpressワークステーションから取り外してください。



- 再セットアップを確実にするためにExpressワークステーション内部に増設したデバイス(ハードディスクなど)も取り外して購入時の状態にしておくことをお勧めします。特に、ハードディスクは購入時の台数、接続状態にしておくことをお勧めします。ただし、メモリ(Windows NT 4.0を再セットアップする場合は3GBまで)は再セットアップ前に取り外す必要はありません。
- Windows NT 4.0の再セットアップで、「新規にパーティションを作成する(39ページ参照)」場合は、購入時の台数に関わらず、OSをインストールするハードディスクのみを接続してください。

再セットアップに必要なディスクは次のとおりです。

- ☐ EXPRESSBUILDER(CD-ROM)
- ☐ バックアップCD-ROM
 - － Disc1 : 133-149059-084-X*
 - － Disc2 : 133-149059-085-X* * 「X」にはB以降のアルファベットが入ります。
- ☐ セットアップパラメータFD(または1.44MBフォーマットの3.5インチフロッピーディスク1枚)



セットアップパラメータFDを使うと再セットアップの際に選択するさまざまな項目をスキップして前回と同じ設定で自動的にセットアップすることができます。

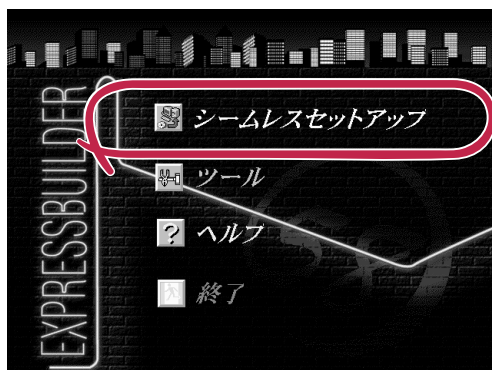
再セットアップの開始

以下の手順で再セットアップを始めます。

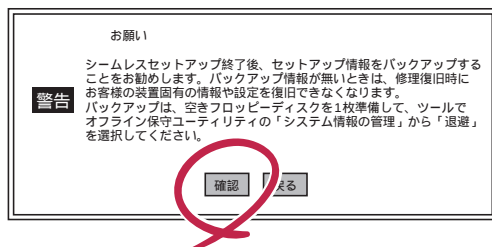


Expressワークステーションに接続しているキーボードが添付のキーボード(109型日本語キーボード)と異なる場合は、キーボードの設定を変更してください。詳しくは100ページの説明を参照してください。

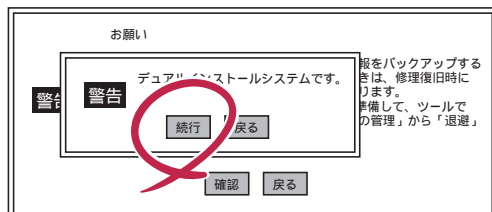
1. EXPRESSBUILDER CD-ROMから起動する。
2. [シームレスセットアップ]をクリックする。
「お願い」が表示されます。



3. 記載内容をよく読んでから[確認]ボタンをクリックする。



4. [続行]ボタンをクリックする。
内蔵のハードディスク内の状態を通知するメッセージです。
「セットアップパラメータFDを挿入してください。」というメッセージが表示されます。



5. セットアップパラメータFD、または1.44MBフォーマット済のブランクフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして[確認]ボタンをクリックする。

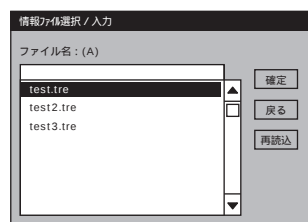


チェック

ライトプロテクトはしないでください。

[設定済のセットアップパラメータFDをセットした場合]

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。



インストールに使用するセットアップ情報ファイル名を選択する。



選択されたセットアップ情報ファイルに修正できないような誤りがある場合(たとえば ExpressPicnic Ver.3以前において作成した「Picnic-FD」をセットしているときなど)再度「セットアップパラメータFD」のセットを要求するメッセージが表示されます。セットしたフロッピーディスクが正しいか確認してください。

セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

確認する場合は[確認]ボタンを、確認せずにそのままインストールを行う場合は、[ステップ]ボタンをクリックする。

重要

オペレーティングシステム(OS)の選択では、前回使用していたOSを選択してください。前回使用していたOS以外のOSをインストールすることはできません(たとえば、前はWindows NT 4.0 Workstationを選択してインストールしたが、今回はWindows 2000 Professionalをインストールしたいなど)。前回使用していたOS以外のOSをインストールするためには別途インストールしたいOSを購入してください。

<Windows 2000 Professionalを選択したセットアップ情報ファイルの場合>

- [確認]ボタンをクリック → 次ページの手順1へ進む
- [ステップ]ボタンをクリック → 次ページの手順2へ進む

<Windows NT 4.0 Workstationを選択したセットアップ情報ファイルの場合>

- [確認]ボタンをクリック → 39ページの手順1へ進む
- [ステップ]ボタンをクリック → 39ページの手順2へ進む

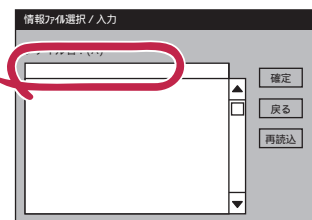
[ブランクディスクをセットした場合]

[ファイル名:(A)]の下にあるボックス部分をクリックするか、Aキーを押す。

入力ボックスが表示されます。

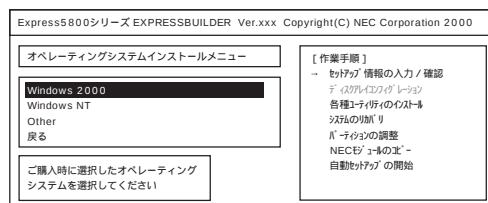
ファイル名を入力する。

[オペレーティングシステムインストールメニュー]が表示されます。



前回使用していたオペレーティングシステムを選択する。

[Windows 2000]か[Windows NT]のいずれかを選択してください。



- [Windows 2000]を選択 → 次ページへ進む
- [Windows NT]を選択 → 39ページへ進む

重要

オペレーティングシステム(OS)の選択では、前回使用していたOSを選択してください。前回使用していたOS以外のOSをインストールすることはできません(たとえば、前はWindows NT 4.0 Workstationを選択してインストールしたが、今回はWindows 2000 Professionalをインストールしたいなど)。前回使用していたOS以外のOSをインストールするためには別途インストールしたいOSを購入してください。

Windows 2000 Professionalの再セットアップ

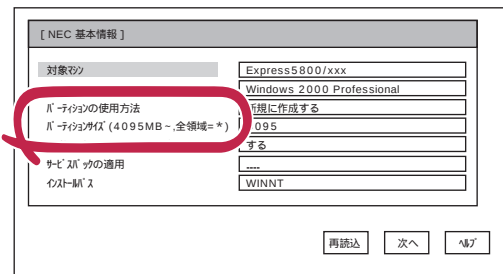
34ページの「再セットアップの開始」でMicrosoft Windows 2000 Professionalを選択した場合のセットアップ手順と注意事項について説明します。

システムを再インストールするパーティションについて

システムのインストール先のパーティションについて説明します。システムをインストールしようとしているハードディスク内にユーザーエリアが存在する場合は、ここで説明する内容をよくお読みになり、セットアップを始めてください。

Windows 2000 Professionalの再セットアップでは、再インストール先のパーティションサイズを設定することができます。

再インストール先のハードディスクのすべてのエリアをフォーマットし直す場合は、[パーティションの使用方法]で「新規に作成する」を選択します。



ただし、インストール先のハードディスク内にユーザーエリアがある場合は、ユーザーエリア内の大切なファイルのバックアップをとってからセットアップを始めてください。



Express5800シリーズ専用の保守用パーティション(MAINT_P)は、フォーマットされません。

[パーティションの使用方法]で「既存のパーティションを使用する」を選択した場合は、最初のパーティション(保守用パーティションを除く)にインストールされます。

CDROM 0 CDROM (D:) オンライン				
ディスク 0 ベータ版 1915 GB オンライン	MAINT_P 15 MB FAT 正常	C: 790 GB NTFS 正常 (C:\\$777)	300 GB FAT 正常	833 GB 未割り当て

保守用
パーティション

最初のパーティ
ション(ここにイン
ストールされる)

ユーザーエリアのパーティションと割り
当てられていないパーティション
(「新規に作成する」を選択するとフォー
マットされる)

ただし、次の点について注意してください。

- インストール先のパーティションにあるデータはすべて消去されます。
- インストール先のパーティションサイズが「4095MB」未満の場合はインストールできません。
- インストール先のパーティションサイズを変更することはできません。
- 保守用パーティション以外にパーティションが存在しない場合は、インストールできません。[新規に作成する]を選択してください。

オペレーティングシステムのセットアップ

次の手順に従ってセットアップをします。

1. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

[NEC基本情報] 画面が表示されます。
設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ] ボタンをクリックしてください。以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[ヘルプ] ボタンをクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。

重要

- 「パーティションサイズ」で設定できる値は「4095MB」～「999999MB」です。ただし、インストールするディスクサイズ以内の値を指定してください。
- 「パーティションサイズ」で「4095MB」以外の値を指定したときはNTFSにファイルシステムをコンバートしなければいけません。
- 「インストールパス」の設定は「winnt」で固定です。変更できません。
- ネットワークの設定はできません。以下の状態でセットアップされます。
 - TCP/IP(DHCP使用)
 - SNMPサービス(デフォルト設定)
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。

ヒント

[NEC基本情報] 画面にある[再読込] ボタンをクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[再読込] ボタンは、[NEC基本情報] 画面にのみあります。

設定を完了すると自動的に再起動します。再起動後、次のメッセージが表示されます。

「バックアップCD-ROM Disc1」をCDドライブに挿入してください。

2. バックアップCD-ROM Disc1をCD-ROMドライブにセットし、[OK] ボタンをクリックする。

画面が切り替わり、Windows 2000システムの再セットアップを開始します。
再セットアップの途中で次のメッセージが表示されます。

Insert next media and press enter to continue...

3. バックアップCD-ROM Disc2をCD-ROMドライブにセットする。

4. CD-ROMドライブのアクセスランプが消灯してから[OK]ボタンをクリックする。



チェック

アクセスランプが消灯する前に[OK]ボタンをクリックすると、読み込みエラーのダイアログボックスが表示されます。アクセスランプが消灯したことを確認してから[Retry]ボタンをクリックしてください。

次のメッセージが表示されます。

EXPRESSBUILDER CD-ROMを
CD-ROMドライブに挿入してください。

5. バックアップCD-ROM Disc2をCD-ROMドライブから取り出して、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。

再起動後、引き続きオペレーティングシステムのセットアップを行います。

6. メッセージに従ってCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブから、セットアップパラメータFDをフロッピーディスクドライブから取り出して[OK]ボタンをクリックするか、<Enter>キーを押す。

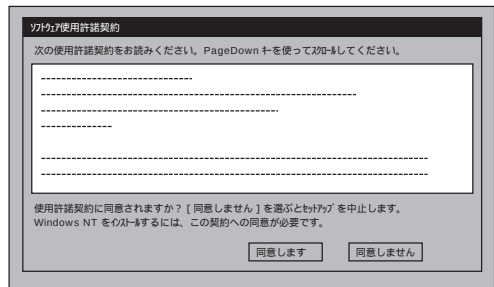
[ソフトウェア使用許諾契約]画面が表示されます。

7. よく読んでから、同意する場合は、[同意します]ボタンを、同意しない場合は、[同意しません]ボタンをクリックする。



重要

同意しないと、セットアップは終了し、Windows 2000はインストールされません。



[Windows2000へようこそ]ダイアログボックスが表示されたら、インストールは完了です。

8. 本体標準装備のデバイスドライバのインストールやアップデートをする。

17ページの「デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ」を参照してください。

以上でWindows 2000のシステムが再セットアップされました。25～32ページを参照してセットアップを完了してください。

Windows NT 4.0 Workstationの再セットアップ

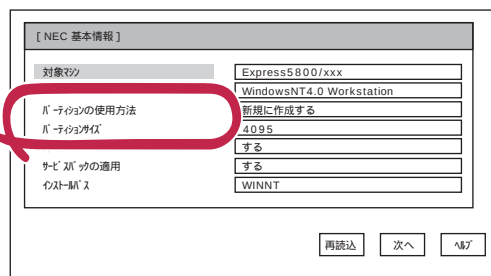
34ページの「再セットアップの開始」でMicrosoft Windows NT 4.0 Workstationを選択した場合のセットアップ手順と注意事項について説明します。

システムを再インストールするパーティションについて

システムのインストール先のパーティションについて説明します。システムをインストールしようとしているハードディスク内にユーザーエリアが存在する場合は、ここで説明する内容をよくお読みになり、セットアップを始めてください。

Windows NT 4.0 Workstationの再セットアップでは、再インストール先のパーティションサイズを設定することができます。

再インストール先のハードディスクのすべてのエリアをフォーマットし直す場合は、**[パーティションの使用方法]**で**[新規に作成する]**を選択します。



ただし、インストール先のハードディスク内にユーザーエリアがある場合は、ユーザーエリア内の大切なファイルのバックアップをとってからセットアップを始めてください。



Express5800シリーズ専用の保守用パーティション(EISAユーティリティ)は、フォーマットされません。

[パーティションの使用方法]で**[既存のパーティションを使用する]**を選択した場合は、最初のパーティション(保守用パーティションを除く)にインストールされます。

保守用パーティション
最初のパーティション
(ここにインストールされる)
ユーザーエリアのパーティション
(**[新規に作成する]**を選択するとフォーマットされる)



ただし、次の点について注意してください。

- インストール先のパーティションにあるデータはすべて消去されます。
- インストール先のパーティションサイズが「2048MB」未満の場合はインストールできません。
- インストール先のパーティションサイズが「4095MB」よりも大きい場合は自動的にNTFSにコンバートされます。また、Service Pack 5以上の適用が必要です。
- インストール先のパーティションサイズを変更することはできません。
- 保守用パーティション以外にパーティションが存在しない場合は、インストールできません。**[新規に作成する]**を選択してください。

オペレーティングシステムのセットアップ

次の手順に従ってセットアップをします。

1. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

[NEC基本情報]画面が表示されます。
設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]ボタンをクリックしてください。以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[戻る]、[戻る]ボタンをクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。

重要

- 「パーティションサイズ」で設定できる値は「2048MB」、「4095MB」、「8000MB」のうちのいずれかです。
- 「パーティションサイズ」で「8000MB」を指定したときはNTFSにファイルシステムをコンバートしなければいけません。
- 「インストールパス」のデフォルトは「<システムドライブ>:¥WINNT」です。お使いになる環境に合わせて変更することもできます。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。

ヒント

[NEC基本情報]画面にある[再読込]ボタンをクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[再読込]ボタンは、[NEC基本情報]画面にのみあります。

設定を完了すると自動的に再起動します。

- 「パーティションの使用方法」で「新規に作成する」を選択した場合
次のメッセージが表示されます。手順2に進んでください。

「バックアップCD-ROM Disc1」をCDドライブに挿入してください。

- 「パーティションの使用方法」で「既存のパーティションを使用する」を選択した場合
次のメッセージが表示されます。手順3に進んでください。

「バックアップCD-ROM Disc2」をCDドライブに挿入してください。

- バックアップCD-ROM Disc1をCD-ROMドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックする。
画面が切り替わり、Windows NT 4.0 Workstationシステムの再セットアップを開始します。
再セットアップの途中で次のメッセージが表示されます。

Insert next media and press enter to continue...

- バックアップCD-ROM Disc2をCD-ROMドライブにセットする。
- CD-ROMドライブのアクセスランプが消灯してから[OK]ボタンをクリックする。



チェック

アクセスランプが消灯する前に[OK]ボタンをクリックすると、読み込みエラーのダイアログボックスが表示されます。アクセスランプが消灯したことを確認してから[Retry]ボタンをクリックしてください。

次のメッセージが表示されます。

EXPRESSBUILDER CD-ROMを
CD-ROMドライブに挿入してください。

- バックアップCD-ROM Disc2をCD-ROMドライブから取り出して、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。

再起動後、引き続きオペレーティングシステムのセットアップを行います。

- Update媒体のモジュールをコピーする。

メッセージに従ってインストールするUpdate媒体をフロッピーディスクドライブに挿入してください。



ヒント

[Update媒体の適用]で「しない」を選択した場合は、スキップされます。



チェック

「Update媒体」とは、弊社が発行する不具合吸収用のフロッピーディスクのことです。適用すべき媒体がありましたら、予防保守のため適用してください。なければ必要ありません。

- メッセージに従ってCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブから、セットアップパラメータFDをフロッピーディスクドライブから取り出す。
- 「サービスパック」のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

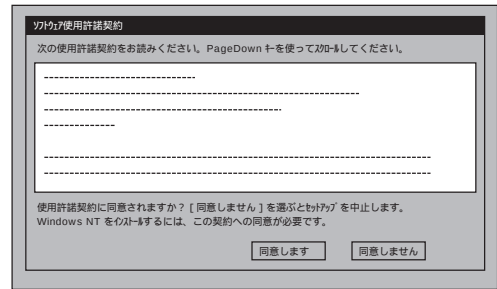


ヒント

[サービスパックの適用]で「しない」を選択した場合は、スキップされます。

[ソフトウェア使用許諾契約]画面が表示されます。

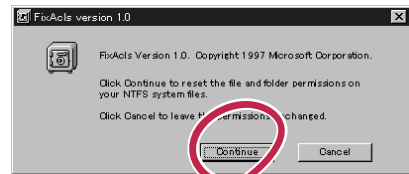
9. よく読んでから、同意する場合は、[同意します] ボタンを、同意しない場合は、[同意しません] ボタンをクリックする。



🔑 重要

- 同意しないと、セットアップは終了し、Windows NTはインストールされません。
- ファイルシステムをNTFSにコンバートした場合

ファイルシステムをNTFSにコンバートしたときは、必ずAdministrator権限を持ったユーザでログオンしてください。また、ログオン後に[FixAcls version 1.0]ダイアログボックスが表示されます。必ず、[Continue] ボタンをクリックしてください。



[WindowsNTへようこそ]ダイアログボックスが表示されたら、インストールは完了です。



チェック

Windows NT 4.0 へはローカルのadministratorとしてログオンします。

10. 本体標準装備のデバイスドライバのインストールやアップデートをする。
- 24ページの「デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ」を参照してください。

以上でWindows NT 4.0 Workstationのシステムが再セットアップされました。25～32ページを参照してセットアップを完了してください。